

4. 筋電電動義手の装着訓練期間について(協力医療機関調査結果)

※労災以外の事例を含めて調査
※1医療機関については未回答

医療機関	標準的な訓練期間(週)(ア)		(ア)を超える場合(その1)		(ア)を超える場合(その2)		(ア)を超える場合(その3)		(ア)を超える場合(その4)		1原因を解消した場合の最大訓練時間(週)	
	前腕切断者	上腕切断者	原因	期間	原因	期間	原因	期間	原因	期間	前腕切断者	上腕切断者
A	8	実績なし	超過事例なし									
B	4~6	実績なし	断端長が短いため	4	疼痛が強いため	4	高齢のため、分離運動コントロールに時間がかかる	4~8	受傷から装着までの時間が原因で、分離運動コントロールに時間がかかる	4~8	14	
C	8	10	断端が未熟、脆弱な皮膚などの断端のトラブルのため、断端訓練に時間がかかる	4	健側上肢の骨折、下肢切断、高次脳機能障害などの障害	4	心理的な問題	4			12	14
D	4	7	ハーネス調整に時間がかかる 毎日の調整が必要	5	上腕電動義手の場合、能動義手を使いこなせていないと操作が困難	5	上腕電動義手の場合、ソケット吸着式を使用した引き布を使い装着に時間を要した	5			9	12
E	8	実績なし	超過事例なし									
F	3~4	4~6	超過事例なし									
G	5	8	日常生活動作訓練・職業動作訓練が、動作内容が多岐にあたる為に時間がかかる	2	手先具の再評価と検討が、実際の場面で数種類のパーツを検討ため時間がかかる	3					8	11
H	4	6	筋持久力低下により長時間実施すると疲労が強い	2	創の癒痕が多く電極の位置決め時間がかかる	2	実際の場面で使用すると誤作動が出やすい	1			6	8
I	4~5	実績なし	ソケットの適合が難しく、一定の筋電を検出することが難しい。	2~4							9	
J	4	8	断端部の変化に伴うソケット調整、電極位置調整	3	ソケットとハーネスの調整	3					7	11
平均値	5.60	7.50										
最小値	3	4								最小値	6	8
最大値	8	10								最大値	14	14

※平均値は、各医療機関の最大値を基に算出。

医療機関	通院している者への訓練・指導内容	
	内容	時間等
A	コップを持つ。洗濯物を把持する。子供と遊ぶ際の玩具の使用等を利用する。	1日2、3時間程度
B	日常生活動作の獲得	1日6～8時間以上装着するように指導
C	日常生活の中で実際に義手を使用し、義手使用の利点や問題点を明らかにする。成人の場合、可能な限り入院での訓練を進めている。	可能な限り毎日、装着時間もできるだけ長時間装着するように指示
D	通院による訓練は行っていない	—
E	個々の生活環境に合わせた訓練を指導している	個々で異なる
F	基本操作訓練(把持練習)、ADL練習	毎日、1日2～4時間
G	日常生活動作や職業動作で実際使用していただく	毎日、1日あたり8時間
H	実際のADLでの使用	毎日、一日中装着し、日常生活で使用するように指導
I	実績なし	実績なし
J	※義手の貸出を行っていない。入院中にほぼ訓練は終了。	